

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3790300077
法人名	有限会社 エイム
事業所名	ホームすみれ
所在地	坂出市川津町字東山山田5638番地15 (電話)0877-45-1877

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年7月21日	評価決定日	平成20年8月28日

## 【情報提供票より】(平成20年6月19日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)19年9月1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 6人 非常勤 2人 常勤換算 4.2人

### (2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋造り 1階建ての1階部分
------	-----------------------

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	500円	おやつ	
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要(6月19日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 82.8歳	最低	72歳	最高	92歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	総合病院回生病院	大塚歯科医院	伊藤内科クリニック
---------	----------	--------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、飯野山のふもとに建てられ、坂出市内を一望することができる。事業所は、玄関ホールが広く開放的である。ウッドデッキがあり利用者の方が洗濯や談笑されている光景も見られる。家庭菜園もあり、季節の野菜などが植えられ食材としても提供されており、水やりなど生きがいがづくりに一役をかつている。ホーム内も明るく清潔な建物で清掃も行き届いており、入居者の方々の穏やかな笑顔はホームでの生活が安心して送れていることがうかがえる。地域とのつながりが感じられるホームは開設して1年未満ではあるが、スタッフがよりよいホームづくりを目指し、質の向上に向けた取り組みをしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回ははじめての外部評価であるが、ホーム開設から現在まで、スタッフ間で話し合いながら改善を行ってきた。今回の外部評価をよりよいホームづくりのために活かしていられることを期待している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>スタッフに聞きながら管理者が作成した。問題点や課題は月1回のカンファレンスだけではなく、申し送りノートに書いて常に支援の見直しをしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域のかたが積極的に運営推進会議に参加している。家族、地域、市、管理者、事業所関係者の参加のもと、あらかじめ作ったレジメにそって会議を進行している。新規入所者、行事、問題点などを話し合っている。地域のかたが多く参加しており、意見が参考となることが多く支援に活かしている。今後は利用者の参加も望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には、月一回、担当スタッフからの手紙、行事の写真、金銭出納、請求書を同封して送付している。体調が悪い場合や、緊急時には電話やファックスで連絡をしている。ホーム便りによる行事のお知らせや、家族の要望などを受けるための意見箱の設置が望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>お花や果物をもらったりと地域との付き合いはしているが、行事などへの案内はまだしていない。運営推進会議にも地域のかたが多く参加しており、よい関係がつけられているため、地域との連携を深めるためにも、この機会に自治会に入会されることが望まれる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	立ち上げの際にスタッフ間で話し合っ「私たちは、一人ひとりの生活と笑顔を大切にしています「安心」＝「笑顔」ホームすみれの理念です」と決めた。	○	理念をホーム内に掲示していないため、日々の支援を振り返る機会としてホーム内に提示することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝・夕の申し送りにおいて振り返る場を設けている。日々の支援でもスタッフ間で話し合う機会をもって「笑顔」で過ごせるように心がけておられる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花や果物などをもらうなど付き合いはあるが、行事の案内はしていない。ゴミなどは個人業者に依頼している。	○	運営推進会議に地域の方が積極的に参加しており、関係性もよいため、この時期に自治会に入るなどから、地域との関係を良好にしていくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価は初めてであり、スタッフから聞きながら管理者が自己評価をおこなった。開設時からスタッフとともに試行錯誤しながら改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、市関係者、管理者、事業所理事などが参加し運営推進会議を開催されている。入居状況や事業報告などを行っており、地域のかたの参加が多く、貴重なご意見をいただくことが多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議だけではなく、随時、市の介護保険課や地域包括支援センターなどに連絡をいれ相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回、利用者の担当職員からの手紙、行事参加時の写真、金銭出納、請求書を送付している。また、緊急時には電話連絡やファックスで連絡をしている。今後はホーム便りの発行が期待される。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に意見を聴いたり、ケアプラン作成時に要望をうかがうようにしているが、意見は少ない。言いたいことを言ってもらえるようにアンケート作成を考えている。	○	家族が来られた時に、意見や要望をいただきやすくするためにも意見箱の設置が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、ケアマネジャーの異動はない。開設当初はスタッフが入れ替わったこともあったが、現在は落ち着いている。異動も少なく入居者のダメージもほとんど見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、月一回のカンファレンスのみではあるが、今月よりカンファレンスの際に勉強会を行なう予定である。ホームに就職後、ヘルパー2級を取得した職員もおり、職員を育てる取り組みをしている。日々の支援のなかで学びあうことも多くあるが、今後は、勉強会の開催や研修への派遣も望まれる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居希望者との連携のため、前施設のスタッフやケアマネジャーに情報をいただくことはあるが、グループホーム間の交流や勉強会には参加していない。	○	ホームに対する熱意を強く感じることができる。申し送りや日々の支援の中で試行錯誤しながらよりよい支援を目指している。今後は、同業者と交流をもち他のグループホームの取り組みを参考にしたり、入居者間の交流をおこなうことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方は、本人やご家族がホームを見学し入居を決めている。入居後、馴染みにくい方にはスタッフがマンツーマンで支援するなどして安心して過ごせるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であり、経験も豊富で学ぶことが多い。さなだ編みや写経などの趣味だけではなく、季節の行事、料理などを通して学びながら支援が行なわれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買物やドライブなどにも出かけられている。ドライブは、入居者の馴染みの地域に出かけ、入居者の思いやそれに関連する話題などで話を広げていくことができている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーだけではなく、スタッフ全体で話し合いを重ね、本人や家族の意向を聞いて介護計画を作成している。スタッフは月一回のカンファレンスの時だけではなく、日々の支援のなかで気づいたことを介護記録や申し送りに記録し、ケアプランに反映している。	○	申し送り、介護記録、ケアプランそれぞれは充実したものになっているが、日々のケアを記録するにはもう少し整理されることが望まれる。また、ケアプランの共通サービスは記入があるが、個人へのサービスには記入が見られないため、個々の支援についても細かな部分からでも記入されることが望まれる。本人の趣味や特技をいかしたケアプランを作成することが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度の定期見直しのほか、体調が悪い場合や介護認定に合わせて見直しを行なっている。カンファレンスの際に問題点を出し合っているほか、日々の申し送りなどの際、気がつくたびに意見をもちより作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームには、訪問美容師が訪れたり、歯科医、内科医などが往診に訪れるなどホームでの生活が潤いのあるものとなるよう支援している。今後は、地域にも開放し、研修や交流の場となることが望まれる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期的に往診している。歯科医師は、希望に応じて適時往診している。緊急時には、スタッフが付き添って通院することもあり、救急車を要請依頼した時にかかりつけ医の指示のもとに対応するなど、関係を築き医療が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	長期の入院になった場合の対応は、利用契約書に明記されており、ご家族も理解されて入居契約をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけや対応のなかで個人を尊重した対応ができています。脱衣室やトイレなども広く設計されており、プライバシーの確保ができています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員数によって行事が行われたり、宅配による食材調達をおこなっている。入居者の希望も取り入れた支援とまではまだなっていない。	○	ケアプランでは、入居者の共通サービスは記載されているが、個人のサービスは記載されていない。一人ひとりの生活経験を活かした支援や要望を受け止めていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配による食材の調達と買物によってメニューが決められている。準備や片付けは、入居者とともに行なわれており、活き活きと手伝いがされている。疾患のある入居者はおられず、目が不自由な方や義歯がうまくあっていない方については、刻むなどの対応をしている。	○	茶碗や湯のみ、箸などは個人のもを入居時には準備していたが、壊れたものもあり、現在はホームの食器を利用している。今後は、買物外出の際やご家族との面会の際に本人のものを準備することが望まれる。また、メニューによっては、スプーンや箸、小スプーンなど準備することが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外毎日入浴が行なえるようになっている。入浴状況は日誌に記入している。風呂を嫌がる方はいないが、一番風呂を好まれる方には、その都度対応している。夜間入浴を希望する方にはシャワーで対応している。曜日の感覚を忘れないようにということで日曜日の入浴は行っていない。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	設立時には、スタッフが生活のほとんどを援助していたが、現在は、声かけにより、食事、洗濯、水やりなどの手伝いは行なうことができるようになっている。食事の際にもほとんどの入居者が何らかの手伝いをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日ではないが、希望があれば買物などに出かけるようにしている。	○	日常的な外出をするためにも入居者の希望に沿った1週間、1か月の行事計画が望まれる。そのなかで、個人のケアプランが立案され、家族やボランティア、地域の人々の協力を得ながら日常的な外出支援が行なわれることが期待される。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の方が、窓から出て搜索されたことがあり、事故の再発を防ぐこともあり、窓や入り口、風呂場などに鍵をかけている。スタッフ数が多いときには、鍵をかけないように心がけている。	○	事故防止の一方法として鍵をかけたケアを行なっているが、今後は、スタッフの配置の工夫や出入り口に音のなる装置を導入するなどして、日中は鍵をかけない支援をしていくことが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は避難誘導にかかる時間を計測して一回行なわれている。消防署、警察、地域の方も参加しての避難訓練はまだ行なわれてはいない。防災訓練(水害、地震など)の対応や災害に備えた備品、食料備蓄などの準備はされていない。	○	避難訓練は、消防署、警察、地域などと連携をしたものを年2回程度されることが望まれる。地域や公共機関との連携は、職員自らの学びになるだけではなく、地域とのかかわりや事業所の多機能性を活かした支援に、結びつくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配メニューの栄養摂取量を参考にしている。摂取量は日誌に記載している。個人の健康状態にあわせて摂取方法を工夫している。水分は、食事・入浴・散歩などの後や食間に補給している。今後は記録していくことが望まれる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく、清潔な造りとなっている。浴室やトイレの案内もあり、入居者の居室プレートは個性が感じられる。レクリエーションで描かれた塗り絵なども掲示している。今後は、季節感を感じることのできる空間づくりが期待される。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと布団はホームが入居時に準備しており、大きなクローゼットがあり、整理、整頓が行き届いている。今後は、本人の馴染んだものをご家族と相談しながら居室に取り入れていくことが望まれる。		